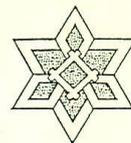


ふくい

舞鶴市立福井小学校

令和6年1月10日発行

(本年度11号)



2024年

た・の・し・い福井小学校

3 学期始業式

3学期の始業式を迎えました。冬休みの間は校舎もひっそりと静まり返っていましたが、新学期を迎え元気な子ども達の声で校舎に賑やかさが戻ってきました。

新年は大惨事で幕を開けました。元日には「令和6年能登半島地震」が発生し、それに伴う津波と相まって大きな傷跡を残しました。時間の経過とともに被災者数はどんどん増加しており、安否不明者も多数おられる事から、被害状況は未だ明らかになっていません。また、羽田空港では旅客機と海上保安庁の航空機が接触し炎上しました。旅客機の乗客乗員は無事脱出しましたが、海上保安庁の5名の方が亡くなりました。海上保安庁機は今回の地震に関わる支援物資の輸送で被災地へ向かう途中だったとか…。これからは冬本番ですが、避難所での生活もさぞ大変でしょう。なお余震が頻発している状況ですから、被災された方々や災害支援活動をされている方々のご苦労は如何ばかりかと思えます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の1日も早い復興を願っています。

今年も「東京箱根間往復大学駅伝競走大会」が開催され、往復217.1 km、計10区間で大学生ランナーが白熱したレースを展開しました。結果は青山学院大学が10時間41分25秒の大会新記録で総合優勝を果たしました。2位には学生駅伝5連覇中の駒澤大学。2日間にわたるレースでは何が起こるか分かりませんが、駒澤大学の力は他を寄せ付けない強さを誇っていました。青山学院大学の原監督も最強集団駒澤大学を相手に、箱根では危機感があったと言います。青山学院大学は大会毎に「〇〇大作戦」を掲げてレースに臨みます。箱根では「マジンガーZ大作戦」に始まり「ワクワク…」「ハッピー…」「サンキュー…」「ハーモニー…」「やっぱり…」など何とも楽しい作戦名が並びますが、今年の箱根は「負けてたまるか！大作戦」。いつもの如く具体性のない作戦です。しかしインフルエンザの流行や主力選手の疾病など、練習が思うように進まない中で、今までの練習スケジュールを再考し、選手の体調管理を綿密に考えた練習メニューに切り替えたり、あえて大会前の練習量を少なくしたりするなど、今までにない練習を実践されたそうです。選手は卒業で次々に入れ替わり、メンバーも10人全員が最強なんてことはありません。実際に前回大会の経験者は2名。しかし最近10大会で7勝の常勝チームであり続けるのは、ピンチをチャンスに変える「〇〇大作戦」の賜物かも知れません。取り留めのない作戦に共通しているのは、選手のモチベーションを維持する指針を分かりやすく表現している点ではないかと思えます。今回も楽しい作戦名とは裏腹に、緻密な計算と選手自身が危機感を持って着実に努力を積み重ねることができなければ成しえなかったでしょう。大切なのは、選手やサポート選手、マネージャー、チームスタッフ等全員がその言葉の意味をしっかりと理解している事であり、やらねばならない「作戦」をしっかりと遂行した結果だと思えます。

今日から3学期が始まります。一人一人が充実した学校生活を目指し、本校も「たのしい大作戦（児童会スローガン）」を遂行したいと思います。

今まで頑張ってきた成果が実る「甲辰」の年になるよう、保護者や地域の皆様のご支援をよろしくお願いたします。

校長 波多野 暢 教職員一同

